

地域の救急医療の充実を目指し JA共済連が高規格救急車を寄贈



▲ ニツ井での披露式に先立ち秋田市で行われた贈呈式

JA共済連は交通事故の未然防止と被害者支援のため、様々な地域貢献活動を行っています。今回、能代山本広域市町村圏組合消防本部へ、車内で救命措置が行える高規格救急車を寄贈し、その披露式が1月10日に配備先のニツ井消防署で行われました。

披露式には広域圏組合やJA関係者など約35名が参加し、広域圏組合代表理事の齊藤能代市長が「JA共済連様のおかげで、高規格救急車を新たに配備することが出来ました。今回の寄贈で、地域の救急医療の更なる充実を図りたい。」と挨拶しました。

寄贈された高規格救急車は翌日から運用され、地域住民の大切な命を守っています。

藤里小学校1年生の佐藤靖子さんが 交通安全ポスターコンクールで連続受賞



▲ 受賞ポスターと共に記念撮影をする佐藤さん

小・中学生の交通安全への意識向上を目的に、毎年開催している『JA共済 全国小・中学生交通安全ポスターコンクール』。平成23年度の秋田県内コンクールでは、各小・中学校から448点もの作品が出品され、その中から藤里町立藤里小学校の佐藤靖子さんのポスターが、小学校1年生の部・金賞と秋田魁新報社賞に輝きました。また、その後に行われた全国のコンクールでも、全共連会長賞・佳作に選ばれ、連続受賞となりました。

受賞者の佐藤さんは「ポスターを作ることで、交通ルールの大切さが分かりました。」と話し、コンクールを通じて、交通安全の重要性を感じ取っていました。

今年一年も変わらぬご利用を みょうが館が初売りイベントを開催



▲ 甘くておいしいお汁粉に笑顔の子どもたち

年が明けて管内の各直売所で営業がスタートする中、農産物直売所みょうが館で1月6日、『2012新春初売り』イベントが開催されました。

毎年、年始の挨拶の意味も込めて開催されるこのイベント。今年は先着200名様に、ミカンとお汁粉を無料提供するなど、さまざまな催しで訪れた人々を楽しませていました。

農産物直売所みょうが館は、今年設立15周年を迎える人気直売所。安全・安心な野菜作りはもちろん、食育活動等にも積極的に取り組むなど、地域の食文化の発展と伝承に尽力しており、昨年その功績が認められ、ふるさと秋田農林水産大賞に輝きました。

平成23年度の稲作実績を確認し 来年度の営農計画を検討



▲ 平成23年度の稲作を振り返る生産者

JA稲作部会ニツ井支部による稲作実績検討会が12月21日、ニツ井公民館で開催されました。

検討会には、生産者やJA・肥料農薬メーカーの担当者など、約30名が参加。はじめに堀内直富久支部長が「作況は平年並みだったが、生育不良による収量減やくず米の増加があった。この経験を糧に、来年度の栽培に臨みたい。」と挨拶しました。その後JAから、平成23年度における稲作の生育や収穫・出荷などを説明しました。

生産者からは、今後のカドミウム米への対策や、新しい肥料・農薬について意見や質問が出されるなど、平成24年度の営農についてJAとともに検討しました。